

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 6月 30日

愛知県知事 殿

提出者

住 所 東京都千代田区神田美土代町1番地
氏 名 青木あすなろ建設株式会社 東京建築本店
常務執行役員本店長 江島 泰
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）
電話番号 03-5439-8523

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称

青木あすなろ建設株式会社 名古屋支店

事業場の所在地

愛知県名古屋市中川区月島町6-1

計画期間

令和4年4月1日～令和5年3月1日（1年間）

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	D建設業 [6-総合建設業]
② 事業の規模	全社：78,900 百万円 名古屋支店：1,627 百万円
③ 従業員数	全社：1,042 人 名古屋支店：13 人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別途①の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排 出 量	— t	67.30 t
	(これまでに実施した取組) 現場内利用や他現場で発生した再生資源の積極活用に努め、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努めた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	排 出 量	— t	63.00 t
	(今後実施する予定の取組) 再生資源の現場内利用を継続するとともに、他現場（作業所）との情報交換を行う事により、効率的な再生資源活用に努める。また、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック、木くず及び金属くずは、それぞれの発生現場に専用のコンテナ類を設置し、分別に努めている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 建設混合廃棄物の発生現場で分別を徹底し、再生資源化の効率向上に努める。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用を行ったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き自社で再生利用を行う予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理を行ったことはない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 引き続き自社で中間処理を行う予定はない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で埋立処分または海洋投入をおこなったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き自社で埋立処分または海洋投入を行う予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	— t	67.30 t
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	45.60 t
	再生利用業者への処理委託量	— t	67.30 t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	25.40 t
	(これまでに実施した取組) 再生利用が可能な品目は全て再生利用ができる処理業者に委託している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃プラスチック類
	全処理委託量	— t	63.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	— t	50.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	— t	63.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	— t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	— t	30.00 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き再生利用ができる業者への委託を行っていく。 また、優良認定処理業者への委託を優先してすすめる。</p>		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	排 出 量	24.10 t	23.90 t
	(これまでに実施した取組) 現場内利用や他現場で発生した再生資源の積極活用に努め、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努めた。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	排 出 量	22.00 t	22.00 t
	(今後実施する予定の取組) 再生資源の現場内利用を継続するとともに、他現場（作業所）との情報交換を行う事により、効率的な再生資源活用に努める。また、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック、木くず及び金属くずは、それぞれの発生現場に専用のコンテナ類を設置し、分別に努めている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 建設混合廃棄物の発生現場で分別を徹底し、再生資源化の効率向上に努める。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で再生利用を行ったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き自社で再生利用を行う予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
(これまでに実施した取組) これまで自社で中間処理を行ったことはない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
(今後実施する予定の取組) 引き続き自社で中間処理を行う予定はない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） これまで自社で埋立処分または海洋投入をおこなったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き自社で埋立処分または海洋投入を行う予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	全処理委託量	24.10 t	23.90 t
	優良認定処理業者への処理委託量	24.10 t	23.90 t
	再生利用業者への処理委託量	24.10 t	23.90 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	8.20 t	14.90 t
（これまでに実施した取組） 再生利用が可能な品目は全て再生利用ができる処理業者に委託している。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	木くず
	全処理委託量	22.00 t	22.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	22.00 t	22.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	22.00 t	22.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	10.00 t	18.00 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き再生利用ができる業者への委託を行っていく。 また、優良認定処理業者への委託を優先してすすめる。</p>		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

② 現状

【前年度（平成3年度）実績】

産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
排 出 量	101.70 t	70.10 t

(これまでに実施した取組)

現場内利用や他現場で発生した再生資源の積極活用に努め、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努めた。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
排 出 量	95.00 t	65.00 t

(今後実施する予定の取組)

再生資源の現場内利用を継続するとともに、他現場（作業所）との情報交換を行う事により、効率的な再生資源活用に努める。また、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努める。

産業廃棄物の分別に関する事項

② 現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

廃プラスチック、木くず及び金属くずは、それぞれの発生現場に専用のコンテナ類を設置し、分別に努めている。

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

建設混合廃棄物の発生現場で分別を徹底し、再生資源化の効率向上に努める。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
② 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） これまで自社で再生利用を行ったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き自社で再生利用を行う予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
② 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
（これまでに実施した取組） これまで自社で中間処理を行ったことはない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
（今後実施する予定の取組） 引き続き自社で中間処理を行う予定はない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
② 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） これまで自社で埋立処分または海洋投入をおこなったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き自社で埋立処分または海洋投入を行う予定はない。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
② 現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	全処理委託量	101.70 t	70.10 t
	優良認定処理業者への処理委託量	101.70 t	38.50 t
	再生利用業者への処理委託量	101.70 t	70.10 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	9.60 t	17.50 t
（これまでに実施した取組） 再生利用が可能な品目は全て再生利用ができる処理業者に委託している。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	金属くず	ガラス・陶磁器くず
	全処理委託量	95.00 t	65.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	95.00 t	57.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	95.00 t	65.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	45.00 t	35.00 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き再生利用ができる業者への委託を行っていく。 また、優良認定処理業者への委託を優先してすすめる。</p>		
※事務処理欄			

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙②のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（平成3年度）実績】

産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
排 出 量	2111.15 t	58.37 t

(これまでに実施した取組)

現場内利用や他現場で発生した再生資源の積極活用に努め、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努めた。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
排 出 量	2000.00 t	55.00 t

(今後実施する予定の取組)

再生資源の現場内利用を継続するとともに、他現場（作業所）との情報交換を行う事により、効率的な再生資源活用に努める。また、排出する際には引き続き再生資源化施設の活用に努める。

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

廃プラスチック、木くず及び金属くずは、それぞれの発生現場に専用のコンテナ類を設置し、分別に努めている。

②計画

(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

建設混合廃棄物の発生現場で分別を徹底し、再生資源化の効率向上に努める。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	（これまでに実施した取組） これまで自社で再生利用を行ったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	（今後実施する予定の取組） 引き続き自社で再生利用を行う予定はない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	— t	— t
（これまでに実施した取組） これまで自社で中間処理を行ったことはない。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	— t	— t
（今後実施する予定の取組） 引き続き自社で中間処理を行う予定はない。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) これまで自社で埋立処分または海洋投入をおこなったことはない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き自社で埋立処分または海洋投入を行う予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

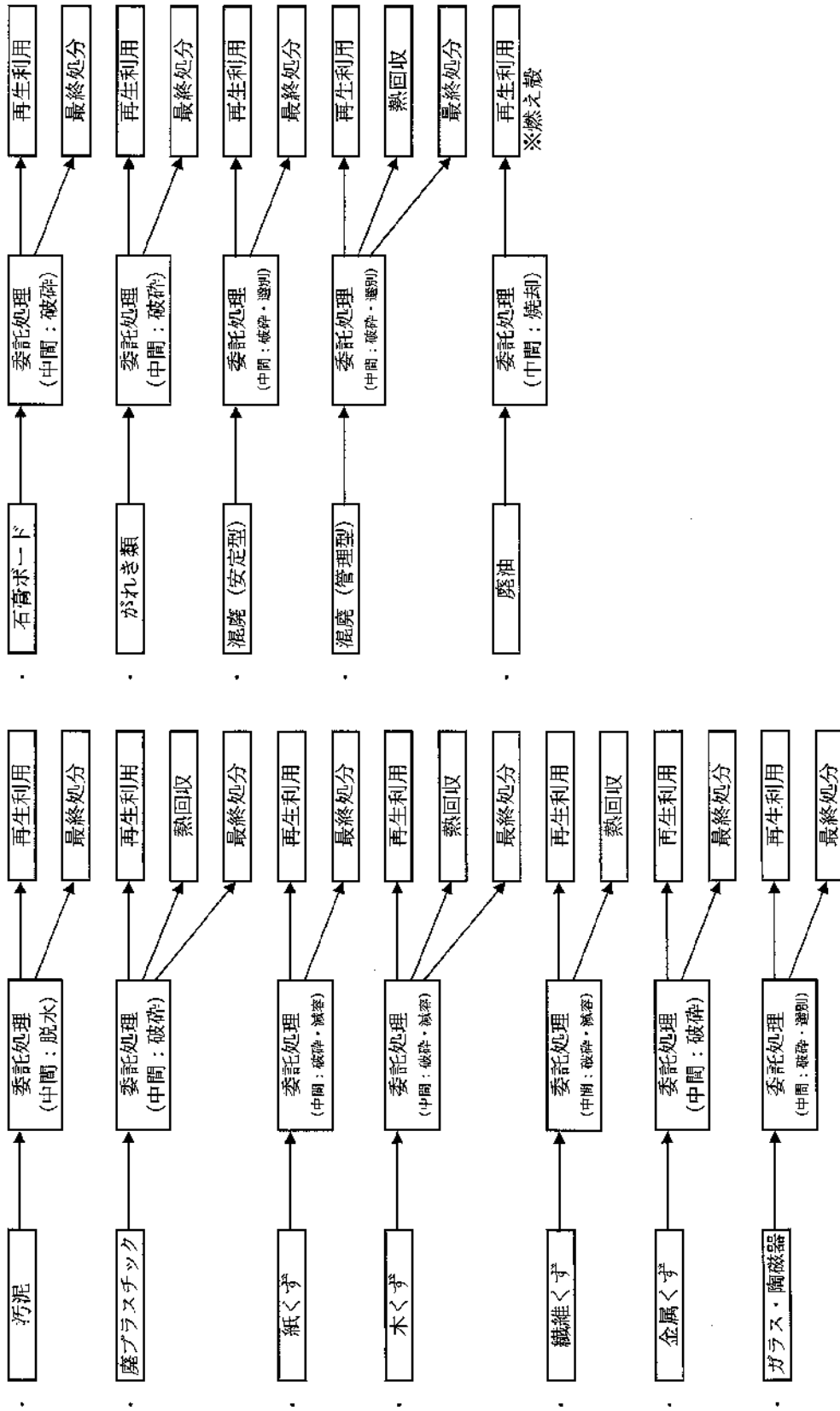
①現状	【前年度（平成3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	全処理委託量	2111.15 t	58.37 t
	優良認定処理業者への処理委託量	109.70 t	33.40 t
	再生利用業者への処理委託量	2111.15 t	58.37 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	61.40 t	28.10 t
	(これまでに実施した取組) 再生利用が可能な品目は全て再生利用ができる処理業者に委託している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	がれき類	建設混合廃棄物
	全処理委託量	2000.00 t	55.00 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	510.00 t	45.00 t
	再生利用業者への 処理委託量	2000.00 t	40.00 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	100.00 t	20.00 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き再生利用ができる業者への委託を行っていく。 また、優良認定処理業者への委託を優先してすすめる。</p>		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が 1,000 トン以上の事業場ごとに 1 枚作成すること。
- 2 当該年度の 6 月 30 日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第 6 条の 11 第 2 号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 15 条の 3 の 3 第 1 項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が 3 以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理工程



建設副産物管理組織図

